

【別紙様式Ⅰ】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 妻田小 学校

厚木市教育委員会の基本目標		1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】		校長名 小島 あき子
学校教育目標		学校経営の方針		
豊かな心を持ち、たくましく生きる妻田っ子の育成		学校大好きみんなが集まる、楽しく、安心・安全な学校 一人一人を大切に教育活動に努め、学校・保護者・地域の人々みんなが力を合わせ、児童を育て、見守ることにより、誰もが楽しくなり、そして安心・安全な学校づくりをめざします。		
今年度の重点目標				
いのちかがやく教育「げんきな子」強い心と健康な体をもつ子 ・安全・安心な学校づくりのため、危機管理体制を確立するとともに、安全指導の充実を図り、環境整備に努める。 ・健康な心と体づくりのために、体力の向上、食育の推進を含む健康教育の充実を図る。 まなびふかまる教育「よく考える子」学び、考え、行動する子 ・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、思考力、判断力、表現力を育む授業を行い、自主性・主体性を伸ばす教育活動をめざす。 ・教育活動全体を通して、自己を見つめ、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養い、道徳実践力を育てる。 ともだちひろがる教育「なかよくする子」だれにでも思いやりのある子 ・豊かな心を育み、自立した人間として他者と共により良く生きるために、自他を大切にする人権感覚を育てる。 ・家庭・地域との連携を図り、児童の体験活動を充実するとともに、開かれた学校、信頼される学校づくりをめざす。				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
安全指導の充実	1・2	・避難訓練の実施と、事後指導の充実。訓練後の振り返りを特に大切にする。 ・避難訓練は実際の災害発生時に近い状況で実施できるよう、工夫する。 ・児童が家庭にいる時の災害時の行動について、保護者と児童と一緒に考えられるようなツールを準備する。	・児童アンケートの結果を見ると、「災害時にどう行動すればよいか」にほとんどの児童がAまたはBと回答している。 ・児童にも職員にも伝えず避難訓練(火災想定)を計画していたが、コロナ感染者増の影響で実施できず、避難訓練の回数は1回減、火災を想定した訓練はゼロになってしまった。 ・保護者アンケートの結果から、「災害時にどうすれな良いか話し合っている」にC・Dと回答した割合が増えてしまった。この項目は毎年課題としてあがってくる。 ・職員アンケートの結果、「災害時に臨機応変に対応することを児童に意識付けできた」「自分の身を守る適切な行動を考えさせることができた」はAの回答が大幅に増えた。避難訓練後の振り返りを丁寧にを行った成果だと思う。	・1学期末の学校評価を受け、次年度から隔年で「危害を加える恐れのある不審者侵入を想定した避難訓練」を実施したい。 ・今年度同様、避難訓練後の振り返りを充実させ、自分の身を守るための適切な行動について考えられるようにしたい。 ・今年度同様、チリリタイムの内容に、幅広く「安全指導」として防災に関わる内容も盛り込んでいく。
交通安全指導の充実	2	・毎月1回のチリリタイムを継続して行う。(朝モジュール) ・ヘルメットの着用や自転車の安全な乗り方の指導など、家庭に協力を仰ぐ。	・保護者アンケートの結果は前年とあまり変わっていないが、交通ルールや交通マナーに対する記述意見がある。 ・職員アンケートの結果も前年同様、交通安全に対する指導はしっかりできている。 ・次年度は交通安全への意識を一層高めていく必要性を感じる。	・毎月1回のチリリタイムは継続する。 ・3、5年生では交通安全教室を実施し、他学年ではDVD視聴による交通安全指導を行う。 ・放課後の交通安全については、家庭にも協力を仰ぐ。
基礎・基本の定着	1	・算数ルーム(3・4年生)の充実・・・やり方を検討する。 ・話す、聞くのめあてを来年度も継続して行う。 ・モジュールの時間等を使って、前年度の漢字や計算練習をする。(漢字の広場)	・算数ルームについては、2・3・4年生の全児童を対象としたので、児童の力をつけることにつながった。地域の方の協力もいただき、地域連携の面からも効果があった。 ・話す・聞くに関しては、学力・学習状況調査の結果からも成果が出ているので、一定の効果があったと考える。授業の中で活用しているかどうかにはばらつきがあるので、全学級でどんどん活用していく必要がある。 ・学力・学習状況調査の結果から、書く力に課題がある。 ・漢字の広場を利用して、文章の意味の中で、漢字を使うようにする。	・来年度も、全児童対象で実施していく。2・3・4年生各3回ずつ。 ・今後も続けていく。 ・5・6年生で要約の練習をする機会を設ける。 ・朝モジュールの時間を利用して漢字の広場に取り組むことで、前年度学年における漢字の書く力を高める。
様々な力を育む授業の実施 自主性・主体性を伸ばす教育活動の充実	1	・考えたこと・思ったことを書く活動を、学年の実態に応じて工夫して行う。(タブレットの活用等) ・1・2年生「先生あのねボード」の活用(上手に話すための手立て。いつ、どこでなど5W1Hが言えるようにする) ・3・4年は日記を活用して、順序立てて表現できるように育成していく。(日記の指導方法の工夫) ・5・6年生は家庭学習ノートに取り組む。(自分の好きなことや苦手なこと、得意なことに取り組む主体性や思考力・判断力・表現力を伸ばす)	・1・2年生では、「先生あのねボード」を活用し、指導することができた。 ・3・4年は日記の宿題に取り組んだが、自由作文になってしまうこともあり、もう少し丁寧に指導する必要があった。 ・5・6年生は家庭学習ノートに取り組んだが、児童によって取組にばらつきがでてしまった。(自分の好きなことや苦手なこと、得意なことに取り組む主体性や思考力・判断力・表現力を伸ばす)	・今後も続けていく。 ・テーマを決めたり、教科書を利用して書き方を指導したりして、日記の取組を続けていく。 ・良いノートを紹介したり、力が付く家庭学習ノートの取り組み方を指導したりしながら、続けていく。

道徳的实践力を育む	2	・道徳ノートの活用 ・児童の書いた意見を発表する。 ・学年間での教材研究(自分事として捉えられるような発問を考える)	・児童の書いた意見を発表する。 ・学年間での教材研究(自分事として捉えられるような発問を考える)	・道徳ノートを使用しないので、学年での教材研究をさらに充実させていく。
自他を大切にする、より良い学級集団作り	2・3	①自己有用感・自己肯定感を高める学級経営の充実 ○児童の実態把握に努める。 ・児童をよく見て、話に耳を傾ける。 ・YP・いじめ等各種アンケートを行い、それに基づいた指導をする。 ・児童・保護者との面談を行う。 ○児童の困り感を、機を逃さず、チームで支援する。 ・職員で情報を共有する。 ・必要に応じて、速やかにケース会議を行う。 ・関係機関と連携し、適切な支援ができるようにする。 ②お互いの良さを認め合える特別活動の工夫 ○学級活動の充実を図る。 ・児童の実態に合った題材を選び自分事として考えさせる。 ・授業をきっかけにして、継続的に取り組ませる。 ○委員会活動、クラブ活動の充実を図る。 ・異年齢集団でのかかわりを通して、上級生へのあこがれをもたせる。	①自己有用感・自己肯定感を高める学級経営の充実 ・YP・いじめアンケート等を行い、児童の実態を捉えて支援していくことができた。また、校内研究と関連させてアンケートをとり、指導に生かすこともできた。 ・児童アンケート6「学校のきまりやルールを守っていますか。」の項目では、高学年児童のアンケート結果の数値が下がっている。学校生活でのきまりやルールは勿論のこと、放課後に地域で過ごすときのルールを守るように、指導を強めていかなければならない。 ②お互いの良さを認め合える特別活動の工夫 ・児童アンケート9「友達と仲良くすることができていますか。」で、昨年よりも大幅にアップした学年があった。校内研究で学級活動(2)を研究し、実践した成果が表れてきたことも理由の一つだと考えられる。児童が思いやりをもって生活していけるように、今後も日々の指導を強めていきたい。	・今後も、児童の実態把握に努めるために、児童との関わりを大切にしたり、定期的にアンケートを実施したりしていきたい。その際、自ら困り感を出せない児童に着目し、適切な支援を行っていけるように様々な形式のアンケートを使用していく。 ・きまりやルールについて学校で指導すると共に、地域との連携や外部講師の講話を取り入れていくなど、積極的に指導していく。「妻田小スクールガイド」を有効に活用していく。 ・従来の学校生活様式に戻りつつあり、子ども同士の関わりが増えてきた。関わりが増えてきた分、楽しいことや嫌なことを経験していく回数も増えるかと思う。多くのことを経験していく中で、より良い関わりがもてるように、また、困ったときに相談できるように、支援体制を整えていく。
地域教材の活用と、地域の方との連携	3	①地域や保護者との連携の推進 ○HPやメールを活用し、学校の様子を伝える。 ○地域の教材を発掘する。 ○地域や保護者の人材を発掘する。 ○地域の行事などを、学校からもお知らせし、参加を促す。 ○民生委員さんと連携して情報を共有し、見守りを継続する。 ②体験活動の充実 ○各学年・各教科のボランティアの計画を立てる。	①地域や保護者との連携の推進 ・職員アンケート10の数値が上がり、昨年度よりもボランティアや外部講師の計画が立てられてきた。次年度以降も積極的に計画し、連携していきたい。一方、保護者アンケート7が少し下がっている。学校側からも、教育活動全般を通して地域行事についての話をしていきたい。感染症対策でこれまで中止されていた飲食を伴う行事が、少しずつ再開されてきた。飲食を伴う行事への参加は、とても多いということなので、地域行事への関心を高めていきたい。 ②体験活動の充実 ・ボランティア計画を作り、活用し始めている。今後も学校運営協議会でも話題にしていきたい。	・地域行事については、今後も各教室で声掛けをしていく。特に道徳での授業の中で、丁寧な指導をしていく。 ・ボランティア計画表の活用を充実させていく。 ・学校運営協議会等で、情報共有していく。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
「ISSの活動を行っていて睦合南地区全体の安心・安全の意識が高く、学校・保護者・地域が一体となって児童を見守る体制が整っている。」「中規模の学校であることから、児童一人一人と丁寧に向き合っていて安心できる。」等のご意見をいただいた。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
学校教育目標具現化に向けて職員全体で取り組むことができ、目標達成と判断されているものも多く見られた。目標達成と判断されたものについては引き続き取組を継続していくとともに、取組が十分ではなく改善が必要とされるものについては、次年度取組をさらに工夫し、来年度の成果につなげたい。				